

# 自己評価書

平成22年4月

京都薬科大学

## 目 次

I	大学薬学部 の 現況 及び 特徴	3
II	目的	5
III	総括	6
IV	自己点検・評価書作成のプロセス	8
V	基準ごとの自己評価	9
	『理念と目標』	
1	理念と目標	9
	『教育プログラム』	
2	医療人教育の基本的内容	13
	(2-1) ヒューマニズム教育・医療倫理教育	
	(2-2) 教養教育・語学教育	
	(2-3) 医療安全教育	
	(2-4) 生涯学習	
	(2-5) 自己表現能力	
3	薬学教育カリキュラム	25
	(3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムの達成度	
	(3-2) 大学独自の薬学専門教育の内容	
	(3-3) 薬学教育の実施に向けた準備	
4	実務実習	39
	(4-1) 実務実習事前学習	
	(4-2) 薬学共用試験	
	(4-3) 病院・薬局実習	
5	問題解決能力の醸成のための教育	57
	(5-1) 自己研鑽・参加型学習	
	『学生』	
6	学生の受入	63
7	成績評価・修了認定	72
8	学生の支援	76
	(8-1) 修学支援体制	
	(8-2) 安全・安心への配慮	
	『教員組織・職員組織』	
9	教員組織・職員組織	93
	(9-1) 教員組織	
	(9-2) 教育・研究活動	
	(9-3) 職員組織	
	(9-4) 教育の評価／教職員の研修	
	『施設・設備』	
10	施設・設備	122
	(10-1) 学内の学習環境	
	『外部対応』	
11	社会との連携	144
	『点検』	
12	自己点検・自己評価	151

# I 大学薬学部の現況及び特徴

(I～Ⅲで文字数は6000字以内としてください。)

## 1 現況

6年制薬学教育プログラムと4年制教育プログラムがリンクしている場合には、本「現況」欄に状況を記載してください。

(1) 大学薬学部・薬学科名

京都薬科大学 薬学部 薬学科

(2) 所在地

京都府京都市山科区御陵中内町5

(3) 学生数、教員および職員数

学生数 : 学部 1,544名、大学院 231名 (2010年2月1日現在)

職員数 : 教育職員 93名、事務職員 42名 (2010年1月1日現在)

## 2 特徴

京都薬科大学は、1884(明治17)年に京都府御雇ドイツ人教師ルドルフ・レーマン先生の教えを受けた者18名が、ドイツ語を通じて西洋の医学、薬学の知識を修得しようとして設立した京都私立独逸学校をその起源としている。その後本学は、1892(明治25)年に私立京都薬学校、1919(大正8)年に京都薬学専門学校を経て、1949(昭和24)年に京都薬科大学へ昇格したが、その建学の精神である「愛学躬行」は今に受け継がれている。

1999年4月に理事会で、本学のインフラ整備に関して「現在地で、自己資金の範囲内で、5年後の創立120周年記念を目途に学舎の一部を建て替える」という基本方針が承認された。これに伴い創立120周年を記念し、また薬学6年制移行への準備の一環として2003年より進めてきた愛学館が2005年3月に完成し、新たな教育研究活動の拠点になっている。さらに引き続き躬行館の工事が2010年2月の竣工を目指して行われており、本工事の完成により、今までよりもより充実した教育研究施設が確保されることになる。一方、時代の変化と社会の要請に応じて、薬学教育を6年制とするよう学校教育法が改定された。これを受け、本学では2006年4月の入学生より6年制教育に移行した。本学の6年制教育への移行に伴い、今後の薬学に求められる幅広いニーズと時代の要請にかなった教育・研究活動を行っている。すなわち教育では、コア・カリキュラムと大学独自のカリキュラムがバランスよく構成されており、特に医療人としての倫理観や職業観を早期に身につけるための教育をきめ細かく実施している。

本学は「卒業生全員に薬剤師免許を取得させることを教育の根幹とし」を教育目標の一つとして掲げているが、薬学教育研究センターがその責任を担う分野として存在し、在学生および既卒者に対して多角的に教育指導を行っている。また「臨床

薬剤師・専門薬剤師として病棟業務におけるチーム医療の一員として、また薬局における地域医療・介護の中核として、実務実習で培った実践的な能力と豊かな人間性を備えた、質の高い薬剤師として活躍できる人材の養成」を目標として教育を行っているが、本学では主に臨床薬学教育センターがその責任を担う分野として機能し、医療に貢献できる有為な薬剤師の養成を図っている。これらの検証の仕組みの一つとして現在4年生教育の実務実習でお世話になっている病院薬局や保険薬局の先生方からご意見を頂き、その改善を図っている。また年1～2回先生方との会合を持ち、ご意見やご要望を聴取している。

さらに教育目標として「小さいながらも先端的で高度な研究が行える大学として、創薬等にも貢献できる優秀な人材を育成する」を掲げており、この達成のために6年制でも4年制と同様、3年次の後期より研究室（分野）に所属し、卒論研究を開始している。このような早期からの卒論研究は、私学では少なくとも本学だけであると自負している。また、本学の研究活動の大きな特徴として、21世紀COEプログラムに私学の薬系大学として唯一採択された実績があり、その他私立大学学術研究高度化推進事業の大型プロジェクトにも採択されており、これらは高く評価されると考えている。このような研究活動の成果は約30年前より毎年刊行している「京都薬科大学教育研究業績録」や科学研究費の採択率等でその一部が検証されている。